

レビューシート

ビュー項目 (事業名)	オンライン技術を活用した手話の普及促進 (手話普及促進事業)				部(局)	福祉部	
					所管課	ユニバーサル推進課	
					担当班	社会参加支援班	
					連絡先	078-362-4379	
開始年度	平成25年度	終了年度	—	関連計画等	ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例、障害者等による情報の取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例(愛称:ひょうご・スマイル条例)、第2期ひょうご障害者福祉計画、第6期兵庫県障害福祉実施計画		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	兵庫県聴覚障害者協会	
事業目的	本県では、平成30年4月、障害の有無や性別、年齢等に関わりなく、県民一人ひとりがその個性や才能を発揮して、いきいきと活躍できる社会を実現するため、「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」および「障害者等による情報の取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例」を施行しているが、県内ではいまだ手話に対する理解が浸透しているとは言えない状況である。そこで、聴覚障害者に対する県民の理解を深め、手話を広く普及することを目的に、各種講座を開催する。						
事業概要	対象を細かく分類し、対象に適した各種手話講座を実施 1 手話を広く県民に普及 ①若者を対象とした手話講座、②県民向け手話講座、③出前手話講座(施設、企業等) 2 聴覚障害者と接する機会のある専門職の手話技術・理解向上 ④看護職向け手話講座、⑤手話通訳者レベルアップ講座、⑥手話講師スキルアップ講座 3 聴覚障害者本人の手話習得支援 ⑦聴覚障害児向け手話講座(ひよこ)						
これまでの改善状況	令和元年より、手話講座のより効果的な実施を目的に3つの区分に分類の上、講座を拡充 I 手話を広く県民に普及 (③出前手話講座(施設、企業等)) II 聴覚障害者と接する機会のある専門職の手話技術・理解向上 (④看護職向け手話講座、⑤手話通訳者レベルアップ講座) III 聴覚障害者本人の手話習得支援 (⑦聴覚障害児向け手話講座)						
業務フロー	県 (事業委託) ⇒ 兵庫県聴覚障害者協会						
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		20,548千円	23,644千円	23,759千円	22,734千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	20,548千円	23,644千円	23,759千円	22,734千円	
		補助金・交付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(10,274千円)	(11,822千円)	(11,879千円)	(11,367千円)	
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(10,274千円)	(11,822千円)	(11,880千円)	(11,367千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		21,754千円	23,644千円	23,759千円	22,734千円	
	執行率((①/②)×100)		94.5%	100.0%	100.0%	100.0%	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.2人	従事人員 0.2人	従事人員 0.2人	従事人員 0.2人	
		1,679千円	1,797千円	1,746千円	1,746千円		
職員給与費 a	1,454千円	1,539千円	1,521千円	1,521千円			
賞与引当金繰入額 b	116千円	110千円	116千円	116千円			
退職手当引当金繰入額 c	109千円	148千円	109千円	109千円			
総コスト(①+③)		22,227千円	25,441千円	25,505千円	24,480千円		

レビューシート

指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度目標	最終目標【年度】
成果指標(アウトカム指標①) 手話通訳士・手話通訳者登録者数 (第6期兵庫県障害福祉実施計画)	目標	-	373	381	391	401
	実績(見込)	392	288	302	(391)	【R5年度】
	(単位当たりコスト)	(57千円)	(88千円)	(84千円)	(63千円)	
	達成率(見込)	--	77.2%	79.3%	(100.0%)	
成果指標(アウトカム指標②) 県民向け等手話講座参加者延べ人数 (H26~)	目標				33,411	41,051
	実績(見込)	17,300	21,438	25,771	(33,411)	【R5年度】
	(単位当たりコスト)	(1千円)	(1千円)	(1千円)	(1千円)	
	達成率(見込)	--	--	--	(100.0%)	
成果指標(アウトカム指標③)	目標					
	実績(見込)					
	(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
	達成率(見込)	--	--	--	--	
活動指標(アウトプット指標①) 県民向け等手話講座参加者数 (第6期兵庫県障害福祉実施計画)	目標		4,000	7,640	7,640	7,640
	実績(見込)	4,599	4,138	4,333	(7,640)	【R5年度】
	(単位当たりコスト)	(5千円)	(6千円)	(6千円)	(3千円)	
	達成率(見込)	--	103.5%	56.7%	(100.0%)	
活動指標(アウトプット指標②)	目標					
	実績(見込)					
	(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
	達成率(見込)	--	--	--	--	
活動指標(アウトプット指標③)	目標					
	実績(見込)					
	(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
	達成率(見込)	--	--	--	--	
終期設定	有 () ・ (無)					
改善基準	-					
自 己 評 価	評価の視点	評価			目標に対する達成状況(総合的評価)	
	<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など <p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫を行っているか など 	<p>県民のニーズを踏まえ、手話講座の効果的な実施を目的に、受講対象を細かく分類し、各種講座を設定して事業を実施してきたが、新型コロナウイルスの影響により参加者が激減し、評価指標を大幅に下回る実績となった。手話という専門性の高い分野であるため、民間での事業実施は見込めない。</p> <p>一部、ZOOMを用いたオンライン実施を試み、業務改善を行っているが、実技実習の必要性から、完全なオンライン実施は難しい。聴覚障害者への理解促進を目的にした普及啓発の要素を含むため、受益者負担を求めるのは困難。</p>			<p>新型コロナウイルスの影響により、参加者が集まらず、予定していた実施回数を大幅に下回る結果が続いており、今後も、暫く同様の状況が続くと考えられる。ポストコロナ社会においては、ICT等を活用した、安心して効率的な開催方法等を検討する必要がある。</p>	
課題・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明 (聴覚障害者への理解の普及及び啓発を目的とする「県民向け手話講座」及び「出前手話講座」について、開催方法等の改善を検討)					
外部委員 会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・手話と歌フェスなどのイベント等を組み合わせた事業の実施や、「手話の日」の設定や、定例記者会見の際など、あいさつへ手話を取り入れるなど、手話への関心が高める取組を検討すべき。 ・手話習得時間の見える化をしてはどうか。 ・手話を覚えることによるメリットをわかりやすく示すことで、習いたい人も増えるのでは。 ・初心者にはリアルタイム研修とし、ある程度慣れた人にはオンデマンドで研修することを検討すべき。 					
改善結果						

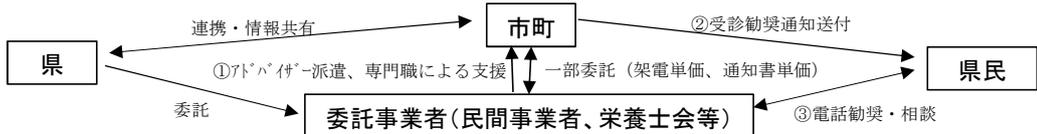
レビューシート

レビュー項目 (事業名)	依存症に関する正しい知識の効果的な普及啓発の検討 (依存症対策総合支援事業)				部(局)	福祉部	
					所管課	障害福祉課	
					担当班	精神障害福祉班	
					連絡先	078-362-3263	
開始年度	平成30年度	終了年度	—	関連計画等	県アルコール健康障害対策推進計画 県ギャンブル等依存症対策推進計画		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他() 実施主体等 県						
事業目的	依存症患者及びその家族等に対する包括的な支援を提供し、地域におけるニーズに総合的に対応するため、精神保健福祉センター内に設置(H30.1月開設)した「ひょうご・こうべ依存症対策センター」(以下「センター」)等において、依存症に対する相談に応じるとともに、依存症患者及びその家族等を支援する事業を実施する。						
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 依存症専門相談：センターに相談員等を配置、患者及び家族等を支援 2. 地域支援者等への研修：センターにおいて行政職員や一般県民等を対象とした研修の開催 3. 家族教室等の開催：センターにおいて依存症関連問題を学ぶ学習会の開催 4. 医療従事者研修の実施：拠点医療機関への委託により、医療従事者等への研修の開催 5. 啓発活動など依存症対策推進計画の効果的実施：啓発活動による正しい知識の普及 						
これまでの改善状況	—						
業務フロー	依存症専門相談・地域支援者等への研修・家族教室等の開催【直執行：精保C、健康福祉事務所】 啓発活動【直執行：本庁】 医療従事者研修【委託：県→拠点医療機関（神大附属病院、垂水病院等）】						
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		7,370 千円	7,702 千円	6,616 千円	5,860 千円	
	経費内訳	報酬・賃金	2,464 千円	2,770 千円	2,940 千円	2,935 千円	
		委託料	2,370 千円	2,383 千円	2,383 千円	1,281 千円	
		補助金・交付金					
		貸付金					
		その他	2,536 千円	2,549 千円	1,293 千円	1,644 千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(3,685千円)	(3,851千円)	(3,506千円)	(2,930千円)	
		(特定)					
		(起債)					
		(一般財源)	(3,685千円)	(3,851千円)	(3,506千円)	(2,930千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		7,370 千円	7,702 千円	6,616 千円	5,860 千円	
	執行率((①/②)×100)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	人件費③ (a+b+c)		従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	
			2,521 千円	2,490 千円	2,622 千円	2,586 千円	
職員給与費	a	2,182 千円	2,157 千円	2,283 千円	2,253 千円		
賞与引当金繰入額	b	175 千円	174 千円	175 千円	174 千円		
退職手当引当金繰入額	c	164 千円	159 千円	164 千円	159 千円		
総コスト(①+③)		9,891 千円	10,192 千円	9,238 千円	8,446 千円		

レビューシート

評価	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度目標	最終目標【年度】
	評価	成果指標(アウトカム指標①)	目標	1,296	1,322	1,348	1,375
自立支援医療(精神通院)受給者のうち主たる疾患が「依存症」である者の人数(治療中の者の人数)		実績(見込)	1,296	1,269	1,353	(1,375)	【R5年度】
		(単位当たりコスト)	(8千円)	(8千円)	(7千円)	(6千円)	
		達成率(見込)	100.0%	96.0%	(100.4%)	(100.0%)	
		目標					
成果指標(アウトカム指標②)		目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率(見込)	--	--	--	--	
		目標					
成果指標(アウトカム指標③)		目標					
		実績(見込)					
	(単位当たりコスト)	--	--	--	--		
	達成率(見込)	--	--	--	--		
	目標						
指標	活動指標(アウトプット指標①)	目標	1,646	1,679	1,713	1,747	1,782
	ひょうご・こうべ依存症対策センター・健康福祉事務所における相談件数	実績(見込)	1,515	1,300	1,294	(1,747)	【R5年度】
		(単位当たりコスト)	(7千円)	(8千円)	(7千円)	(5千円)	
		達成率(見込)	92.0%	77.4%	(75.5%)	(100.0%)	
		目標					
	活動指標(アウトプット指標②)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率(見込)	--	--	--	--	
		目標					
	活動指標(アウトプット指標③)	目標					
		実績(見込)					
(単位当たりコスト)		--	--	--	--		
達成率(見込)		--	--	--	--		
目標							
目標	終期設定	有 ()					無
	改善基準	-					
自己評価	評価の視点		評価		目標に対する達成状況(総合的評価)		
	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など		アルコールやギャンブル依存に悩む者やその家族は相当数存在することが見込まれ、かつその対策は多岐にわたるため、行政として依存症対策を総合的に進めていく必要がある。H29年度に設置したセンターでの相談件数は伸びており(H30:342→R3:389件)、効果が現れつつある。なお、コロナの影響により県健康福祉事務所での相談件数が減少しており、全体の相談件数は目標を下回っている。		計画に基づきセンターを中心に、関係部署・団体等との連携により取組みを進めており、効果は現れていると評価している。しかし、アルコール依存症やギャンブル等依存症患者は県内に相当数存在するが、依然として相談件数、外来受診者数とのギャップは大きい。「依存症になったのは本人の責任」と考える人の割合が他疾患に比較して高いことが要因の一つとして考えられる。この課題を解消していくため、より効果的な普及啓発の取組みが必要である。		
	○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など		関係する行政機関や団体等との連携により効果的に事業を進めているが、さらに事業を充実するため、民間団体等との連携に取り組んでいく必要がある。				
課題・今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明 (依存症に関する正しい知識の普及を図るため、依存症問題を認識していない者への啓発や自助グループ等との連携を進めていくなど、効果的、効率的な事業実施方法を検討)							
外部委員会意見	・関係団体と連携して啓発活動等を何回したかということを出プット指標にしてはどうか。 ・アウトカム指標は相談件数、アウトプット指標は相談イベント等の回数や実施時間等とすべき。 ・アルコール等に初めて触れるのは大学時代と考えられるため、若いうちから正しい知識を学ぶという意味で、大学生等、若者向けに周知することも検討してほしい。						
改善結果							

レビューシート

レビュー項目 (事業名)	国保特定健診・特定保健指導の効果的な受診勧奨 (国保特定健診・特定保健指導実施率アップ事業)				部(局)	福祉部		
					所管課	国保医療課		
					担当班	国保健康づくり推進班		
					連絡先	078-362-3230		
開始年度	令和2年度	終了年度	—	関連計画等	兵庫県健康づくり推進実施計画(第2次) 兵庫県医療費適正化計画(第3期)			
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> その他(市町実施)				実施主体等	県、市町		
事業目的	国保の共同保険者となった県が、共同保険者としての役割を積極的に果たすため、市町の健康課題や保健事業の実施状況を把握するとともに、助言及び具体的な支援を行い、市町の保健事業のさらなる推進に取り組む。							
事業概要	1 特定健診・特定保健指導実施率向上アドバイザー派遣事業(R2年度～) 2 特定健診未受診者受診勧奨通知事業(R2年度～) 3 特定健診電話勧奨(相談窓口設置)事業(R3年度～) 4 市町の保健事業充実のための専門職支援事業(R4年度新規)							
これまでの改善状況	R3年度は専門職による電話勧奨に加え、コロナ禍による受診控えや健康不安を感じる県民に対応するため、相談窓口を設置 R4年度は継続受診等を促すための市町の保健業務を充実するため、管理栄養士等の人材の掘り起こし等を実施							
業務フロー								
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額		
	事業費①		0千円	22,632千円	65,723千円	76,398千円		
	経費内訳	報酬・賃金		0千円	0千円	194千円		
		委託料		22,499千円	65,306千円	75,594千円		
		補助金・交付金		0千円	0千円	0千円		
		貸付金		0千円	0千円	0千円		
		その他		133千円	417千円	610千円		
	(財源内訳)	(国庫)		(22,632千円)	(65,723千円)	(76,398千円)		
		(特定)		(0千円)	(0千円)	(0千円)		
		(起債)		(0千円)	(0千円)	(0千円)		
		(一般財源)		(0千円)	(0千円)	(0千円)		
	予算額② ※精算補正前の予算を記載			66,000千円	65,723千円	76,398千円		
	執行率((①/②)×100)			—	34.3%	100.0%		
	人件費③(a+b+c)		従事人員		従事人員	0.2人	従事人員	0.5人
				0千円	1,660千円	4,368千円	5,172千円	
	職員給与費 a		1,438千円	3,804千円	4,506千円			
	賞与引当金繰入額 b		116千円	291千円	348千円			
	退職手当引当金繰入額 c		106千円	273千円	318千円			
総コスト(①+③)			0千円	24,292千円	70,091千円	81,570千円		

レビューシート

	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度目標	最終目標【年度】
評価	成果指標(アウトカム指標①) 市町国保の特定健診受診率(%)	目標		40.6	47.1	53.6	60.0
		実績(見込)		30.9	(46.1)	(48.6)	R5年度
		(単位当たりコスト)	--	(786千円)	(1,520千円)	(1,678千円)	
		達成率(見込)	--	76.1%	(97.9%)	(90.7%)	
	成果指標(アウトカム指標②) 市町国保の特定保健指導実施率(%)	目標		35.0	43.4	51.8	60.0
		実績(見込)		26.8	(42.6)	(45.1)	R5年度
		(単位当たりコスト)	--	(906千円)	(1,645千円)	(1,809千円)	
		達成率(見込)	--	76.6%	(98.2%)	(87.1%)	
	活動指標(アウトプット指標①) 参加市町の満足度(%)	目標			80	80	80
		実績(見込)			(91.3)	(80)	R5年度
		(単位当たりコスト)	--	--	(768千円)	(1,020千円)	
		達成率(見込)	--	--	(114.1%)	(100.0%)	
活動指標(アウトプット指標②) 市町村ヘルスアップ事業 生活習慣病予防対策事業 2事業以上の申請	目標		29	33	37	41	
	実績(見込)		22	29	(33)	R5年度	
	(単位当たりコスト)	--	(1,104千円)	(2,417千円)	(2,472千円)		
	達成率(見込)	--	75.9%	(87.9%)	(89.2%)		
活動指標(アウトプット指標③)	目標						
	実績(見込)						
	(単位当たりコスト)	--	--	--	--		
	達成率(見込)	--	--	--	--		
目標	終期設定	有()					無
	改善基準						
自己評価	評価の視点	評価		目標に対する達成状況(総合的評価)			
	<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など <p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の生活習慣病リスクの早期発見や予防・改善、医療費適正化に向けた取組みを推進するため、市町の現状を把握し、要望を踏まえた具体的な支援を実施している。 ・しかし、特定健診受診率や特定保健指導実施率は全国平均を下回っており、健診未受診者等への更なる受診勧奨が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者のノウハウを活用し、未受診者に対する効果的な受診勧奨通知の作成、電話勧奨の実施に加え、取組が低調な市町への適切な助言等により、市町保健事業の課題解決に向けた具体的な支援につながった。 ・令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、外出自粛や各保険者による健診時期の変更等の影響により、全国的な受診率の低下が見られた。なお、特定健診受診率や特定保健指導実施率は依然として全国平均を下回っており、健診未受診者等への受診勧奨などの取組を強化していく必要がある。 				
外部委員会意見	課題・今後の方向性						
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明 (健診未受診者への受診勧奨を効果的・効率的に実施するため、勧奨通知と電話勧奨を連動させた取組やSNSの活用等による受診に向けたアプローチについて、効果的な実施手法を検討。)						
改善結果							

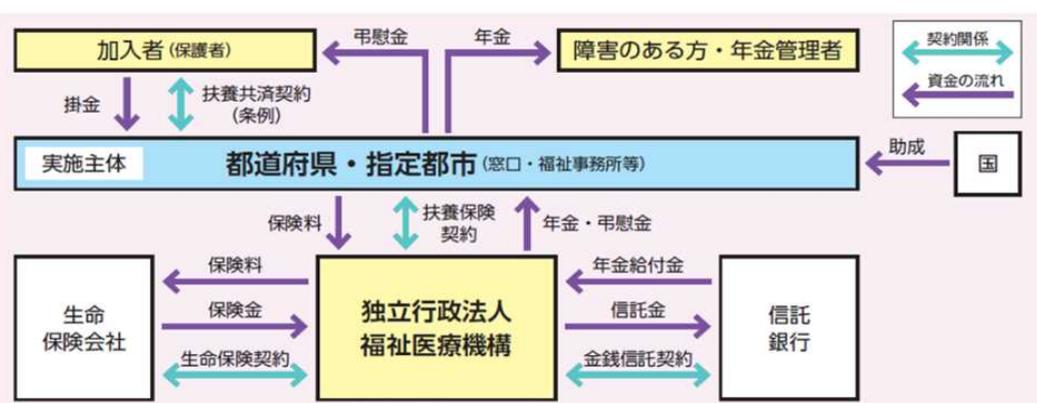
レビューシート

レビュー項目 (事業名)	視覚障害者の資格取得・就労のためのオーディオブックの充実強化 (視覚障害者情報取得等充実強化事業)				部(局)	福祉部	
					所管課	ユニバーサル推進課	
					担当班	社会参加支援班	
					連絡先	078-362-4090	
開始年度	令和元年度	終了年度	—	関連計画等	ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例、障害者等の情報取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例、第2期ひょうご障害者福祉計画		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	兵庫県視覚障害者福祉協会	
事業目的	平成30年4月に「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」及び「障害者等の情報取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例」が制定・施行されたことを踏まえ、視覚障害者（ロービジョン等の中途失明者を含む）の点字未習得者でも手軽に利用でき、重要な情報取得手段であるオーディオブックの充実強化を図る。特に、法律や経済分野等の専門書のオーディオブックは小説、文学作品等に比べて蔵書が少ないことから、視覚障害者の資格取得や就労に役立つよう、オーディオブックの作成等を進めることにより、視覚障害者の専門知識習得を促し、社会参加へつなげる。						
事業概要	オーディオブックの作成に必要な専門書を購入し、有償ボランティアを含む学生等の協力を得ながら作成している。併せて、一般事業者等が作成しているオーディオブックを購入している。図書を選定に当たっては、視覚障害者（利用者）や音訳ボランティア等からなる図書選定等委員会（委託先の兵庫県視覚障害者福祉協会において設置）の意見を聴取し選定している。						
これまでの改善状況	オーディオブックの利用促進を図るため、令和3年3月末から国立国会図書館と連携し、作成したオーディオブックを国会図書館でも公表するなど、相互利用できるようにした。						
業務フロー	県（委託）→ 兵庫県視覚障害者福祉協会						
事業に要するコスト	区 分		元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		7,396千円	7,543千円	6,053千円	6,053千円	
	経費内訳	報酬・賃金					
		委託料	7,396千円	7,543千円	6,053千円	6,053千円	
		補助金・交付金					
		貸付金					
		その他					
	(財源内訳)	(国庫)	(3,698千円)	(3,771千円)	(3,026千円)	(3,026千円)	
		(特定)					
		(起債)					
		(一般財源)	(3,698千円)	(3,772千円)	(3,027千円)	(3,027千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		7,396千円	7,543千円	6,053千円	6,053千円	
	執行率((①/②)×100)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	人件費③ (a+b+c)		従事人員 0.1人	従事人員 0.1人	従事人員 0.1人	従事人員 0.1人	
		840千円	899千円	873千円	873千円		
職員給与費 a	727千円	770千円	761千円	761千円			
賞与引当金繰入額 b	58千円	55千円	58千円	58千円			
退職手当引当金繰入額 c	55千円	74千円	55千円	55千円			
総コスト(①+③)		8,236千円	8,442千円	6,926千円	6,926千円		

レビューシート

	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度目標	最終目標【年度】
評価	成果指標(アウトカム指標①) 専門書の利用回数:延べ600回	目標	350	600	600	600	600
		実績(見込)	18	123	80	(600)	【R5年度】
		(単位当たりコスト)	(458千円)	(69千円)	(87千円)	(12千円)	
		達成率(見込)	5.1%	20.5%	(13.3%)	(100.0%)	
評価	成果指標(アウトカム指標②)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率(見込)	--	--	--	--	
評価	成果指標(アウトカム指標③)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率(見込)	--	--	--	--	
指標	活動指標(アウトプット指標①) オーディオブック購入数:300冊	目標	300	300	300	300	300
		実績(見込)	647	1,026	850	(300)	【R5年度】
		(単位当たりコスト)	(13千円)	(8千円)	(8千円)	(23千円)	
		達成率(見込)	215.7%	342.0%	(283.3%)	(100.0%)	
指標	活動指標(アウトプット指標②) オーディオブック作成数:300冊	目標	50	300	300	300	300
		実績(見込)	2	63	191	(300)	【R5年度】
		(単位当たりコスト)	(4,118千円)	(134千円)	(36千円)	(23千円)	
		達成率(見込)	4.0%	21.0%	(63.7%)	(100.0%)	
指標	活動指標(アウトプット指標③)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
		達成率(見込)	--	--	--	--	
目標	終期設定	有 () . (無)					
	改善基準	-					
自己評価	評価の視点	評価		目標に対する達成状況(総合的評価)			
	<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など <p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など 	<p>専門書の利用冊数については、国会図書館との連携等により利用促進に努めているが利用は低調であり、今後、利用者のニーズ把握が必要である。</p> <p>県立点字図書館の指定管理者である兵庫県視覚障害者福祉協会に事業を委託することで、人件費や賃料等のコストを削減することができている。また、作成作業には専門知識と多大な時間を要することから、大学との包括連携協定に基づき、学生ボランティアの活用を図る仕組みを構築している。</p>		<p>オーディオブックの作成数については、コロナ禍で学生ボランティアが集まりにくい状況が続いたため目標未達となったが、今後、コロナの収束状況を見ながら、ボランティアの活用を図っていく。</p> <p>利用冊数については、国会図書館との連携を図るなど工夫に努めているが、目標未達となっているため、今後、学生等の視覚障害者のニーズをきめ細かく把握し、利用者の希望する専門書を増やすことで利用者増を図っていく。</p>			
評価	課題・今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他					
	説明	<p>より多く利用してもらうためには、視覚障害者のニーズをきめ細かく把握する必要があることから、図書の選定に当たり、大学へのアンケートを実施するなど、学生等の視覚障害者のニーズをより反映させる仕組みの導入を検討</p>					
外部委員会意見	<p>・視覚障害者当事者や周りの人にインタビューし、どのような資格取得・就労を目指すのか情報を集めるなど、どのような情報が求められているのかを明確に想定すべき。</p> <p>・現状の図書の選定方法の是非も含めて改めて検討すべき。専門書であれば県とつながりのある各分野の専門家にお勧めの本を聞いてみる方法等を検討してはどうか。</p> <p>・文字音声化のAIアプリの活用による省力化を引き続き図ること。</p>						
改善結果							

レビューシート

レビュー項目 (事業名)	心身障害者扶養共済の掛金納付方法の多様化 (心身障害者扶養共済制度)				部(局)	福祉部	
					所管課	障害福祉課	
					担当班	身体・知的障害福祉班	
					連絡先	078-362-9497	
開始年度	昭和45年	終了年度	—	関連計画等	—		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()					実施主体等	兵庫県
事業目的	心身障害児者の保護者の相互扶助の精神に基づき、保護者が予め一定額の掛金(年齢に応じて月額9,300円~23,300円)を納付することにより、保護者に万が一のことがあった際、その障害児者に終身年金(1口につき月額2万円)を支給することにより、生活の安定化を図る。						
事業概要	1 保護者が生存中に一定額の掛金を納付 2 保護者が死亡または重度障害になったとき、心身障害児者に終身年金を支給						
これまでの改善状況	・保険料(月額5,600円~14,500円 → 月額9,300円~23,300円)等の改定(平成20年度) ・申請書・届出書に係る押印の廃止(令和2年度)						
業務フロー							
事業に要するコスト			元年度決算額	2年度決算額	3年度当初予算額	4年度当初予算額	
	事業費①		1,196,010千円	1,197,936千円	1,212,474千円	1,230,457千円	
	経費内訳	報酬・賃金	1,611千円	1,620千円	1,948千円	1,941千円	
		委託料					
		補助金・交付金	1,193,053千円	1,195,599千円	1,209,126千円	1,227,404千円	
		貸付金					
		その他	1,346千円	717千円	1,400千円	1,112千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(213,311千円)	(210,345千円)	(210,440千円)	(210,440千円)	
		(特定)	(755,834千円)	(764,525千円)	(776,181千円)	(793,942千円)	
		(起債)					
		(一般財源)	(226,865千円)	(223,066千円)	(225,853千円)	(226,075千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		1,183,020千円	1,193,558千円	1,212,474千円	1,230,457千円	
	執行率((①/②)×100)		101.1%	100.4%	100.0%	100.0%	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	
			3,361千円	3,320千円	3,495千円	3,448千円	
職員給与費	a	2,909千円	2,876千円	3,043千円	3,004千円		
賞与引当金繰入額	b	233千円	232千円	233千円	232千円		
退職手当引当金繰入額	c	219千円	212千円	219千円	212千円		
総コスト(①+③)		1,199,371千円	1,201,256千円	1,215,969千円	1,233,905千円		

レビューシート

	指標名	区分	元年度実績	2年度実績	3年度見込	4年度目標	最終目標【年度】	
評価	成果指標(アウトカム指標①) 利便向上による制度加入者数の増 (減免者含む全加入者数) (障害者の生活の安定)	目標				5,043	5,100	
		実績(見込)	5,192	5,152	5,043	(5,043)	令和8年度	
		(単位当たりコスト)	(231千円)	(233千円)	(241千円)	(245千円)		
		達成率(見込)	--	--	--	(100.0%)		
評価	成果指標(アウトカム指標②)	目標						
		実績(見込)						
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--		
		達成率(見込)	--	--	--	--		
評価	成果指標(アウトカム指標③)	目標						
		実績(見込)						
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--		
		達成率(見込)	--	--	--	--		
指標	活動指標(アウトプット指標①) 公金取扱金融機関口座振替等利用率 (加入者の利便向上)	目標					50%程度	
		実績(見込)					令和8年度	
		(単位当たりコスト)	--	--	--	--		
		達成率(見込)	--	--	--	--		
	指標	活動指標(アウトプット指標②)	目標					
			実績(見込)					
			(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
			達成率(見込)	--	--	--	--	
	指標	活動指標(アウトプット指標③)	目標					
			実績(見込)					
			(単位当たりコスト)	--	--	--	--	
			達成率(見込)	--	--	--	--	
目標	終期設定	有 () . (無)						
目標	改善基準	-						
自己評価	評価の視点		評価			目標に対する達成状況(総合的評価)		
	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など		障害児者の保護者の意思により加入する共済制度で、機構が引き受ける全国一律の枠組みとなっている。この中で、加入者(保護者)の利便向上を図る余地がある。			機構・市町と連携しながら適切に事務を進めており、一定の事業目的は達成されていると評価している。一方、さらなる加入者(保護者)の利便向上と事務改善の取組も必要と認識している。		
○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など		運営事務について、納付書の送付(年3回)等従来どおりの手作業に頼る部分が残っており、事務改善の余地がある。						
外部委員会意見	課題・今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明 (加入者(保護者)の高齢化も踏まえた利便向上及び事務改善により、制度の安定運用を図る。)							
	・納付方法については、心身障害児者の保護者の利便性の高い方法が何かを検討すべき。 ・市町の周知の仕方によって加入率に差がないか分析したうえで、必要に応じて助言等を実施すべき。 ・口座振替等利用率はアウトカム指標にすべき。PR件数をアウトプット指標にしてはどうか。 ・口座振替等の決済手段数をアウトプット指標にしてはどうか。							
改善結果								

